

西谷地区から宝塚直通バスの廃止に至る理由と協議経過

都市安全部 道路政策課

◎宝塚便廃止に至る理由

令和2年度の西谷地区における阪急バス路線バスの赤字額は約8,000万円であり、市の補助があってもなお、収支差が約5,700万円残っていた。加速化する少子高齢化や、運転士不足による運行経費の高騰等の昨今の社会情勢の影響を受け、事業者は段階的な路線縮小により、収支改善を図らなければ路線の維持が困難な状況になっていた。

上記の理由から阪急バスはスクールバス機能を維持した上で、利用実績等も勘案し、運行車両数を3台から朝・夕2台、昼間1台に減じ、交通結節点である武田尾駅に接続する路線を中心とした運行へ改正することとなり、宝塚便の廃止に至った。

◎協議経過等

令和元年12月20日：阪急バス、市

- ・ 阪急バスより事業の厳しい現状（運転士不足や運行経費高騰）について説明があり、段階的な路線縮小を視野に入れていると説明があり、同日、スクールバス機能、通勤等の移動を考慮した車両1台運行によるダイヤ案が示された。

令和2年6月19日：阪急バス、市

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたことから、運行継続にかかる支援の要望あり
- ・ 西谷地域の路線バスの持続的な運行に向け、需要と供給のバランスを整えた、2台運行による修正案の提示あり

令和2年9月4日：阪急バス、市

- ・ 阪急バスより路線縮小による収支改善の説明がされ、減便により喫緊の事業撤退はないとの発言あり
- ・ 減便により収支改善を図り、市補助金を増額したとしても課題（収支差）が引き続き残ることから、運行を継続していくことは中長期的には困難であるとの発言あり

令和2年11月18日：宝塚市西谷自治会連合会長会へ説明

- ・ 経費縮減のため、令和3年4月から3台運行→2台運行により宝塚便が廃止になることを説明

令和2年12月1日：西谷公共交通対策会議へ説明

- ・ 経費縮減のため、令和3年4月から3台運行→2台運行により宝塚便が廃止になることを説明

令和2年12月22日：西谷公共交通対策会議幹事会へ説明

- ・ 路線改正の地元配布ピラ案を市から提示

令和3年1月中旬

- ・ 路線改正について、西谷地域住民への回覧を実施

令和3年1月20日：宝塚市地域公共交通協議会・会議へ報告

令和3年4月1日：阪急バス

- ・ 西谷地域における路線改正を実施

以上